

令和5年度 事業所における自己評価（集計結果）

ビリーブ
野幌
児童発達支援

公表: 2024年 3月 31日

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点をふまえた 改善内容または改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	100%	0%	0%		
	② 職員の配置数は適切である	100%	0%	0%		
	③ 事業所は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている	100%	0%	0%	・毎日室内の消毒、換気実施 ・使用した玩具類等も毎日消毒実施	
	④ 事業所は、子どもの活動に合わせた空間となっている	100%	0%	0%		
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	・全スタッフが見やすい位置にプランが入ったファイルがあるので支援対応方法や目標が解りやすい	
	⑥ 保護者向け評価を活用することによりアンケート調査を実施し保護者の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%		
	⑦ 評価（事業所・保護者）の結果を、事業所のお便りやホームページ等で公開している	100%	0%	0%	・ホームページに公開している	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%	0%		・検討中
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	・月一回の学習会のほかに外部研修を取り入れている（内容によって児発管のみ/全スタッフ）	
適切な支援の内容	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	0%	・年2回の保護者面談でプラン作成	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%	・半年に1回アセスメント実施	
	⑫ 児童発達支援計画には、発達・家族・地域支援の中で必要な項目が適切に選択され、具体的な支援内容が記載されている	100%	0%	0%		
	⑬ 児童発達支援計画に沿って支援が行われている	100%	0%	0%	・個々の課題ファイルにプランを入れているのでいつでも誰でも閲覧でき、支援や対応がしやすい状態にしている	
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	・全スタッフで考えている	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないように工夫している	100%	0%	0%	・工作、調理、外出、ゲーム、イベント等を含め色々と考えて計画及び実施している	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	0%	・毎回個別と集団活動で取り入れている	
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	・毎日朝礼をして1日の確認（送迎担当、当日の利用児童の再確認、当日の支援内容等の確認）	・朝礼はしているが、役割分担はその時々で臨機応変に対応
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い気づいた点等を共有している	100%	0%	0%	・必要に応じて情報共有している ・最後に引き継ぎをしている ・全体LINEにて情報共有にて周知している	
	⑲ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	・ケース記録に記入してパソコンで保存	
⑳ 定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	・3か月～6か月に1回見直しをしている		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点をふまえた 改善内容または改善目標	
関係機関や保護者との連携	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしいものが参画している	100%	0%	0%		
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	0%	・必要に応じて子育て支援課、子ども家庭課の担当者と連携（会議や電話での情報共有等）	
	㉒	移行支援として、保育所や幼稚園、認定こども園等との間で情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	0%	・プランを保護者、もしくは事業所より渡している ・児童送迎時に、担任の先生と情報共有や引き継ぎ等を行っている	
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	0%	・プランを保護者、もしくは事業所より渡している	
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%	・発達支援センターや相談員との連携、ケース会議の実施	
	㉕	（自立支援）協議会、子ども部会等積極的に参加している	100%	0%	0%	・2か月に1回のこども部会と、部会の中の有志の会（年3回）に参加 ・自立支援協議会にもテーマにより参加	
	㉖	日頃から子供の状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共有理解を持っているか	100%	0%	0%	・送り時、連絡帳に細かく伝えている ・LINEや電話での連絡や報告も状況により実施	
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	100%	0%	0%	・必要なご家庭には個別で対応し助言している	
保護者への説明責任等	㉘	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	・契約時に細かく説明している	
	㉙	『児童発達支援計画』を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	0%	・細かく説明したうえで保護者より署名してもらっている	
	㉚	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	・連絡帳、LINE、電話その他自宅訪問や事業所訪問してもらい相談対応 ・24時間電話、LINE相談対応している	
	㉛	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	30%	10%		・検討中（※次年度は開催したいと考え
	㉜	子どもや保護者からの相談について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		
	㉝	定期的にお便り等を発行し活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信している	100%	0%	0%	・月1回のお便り発行（子供の様子や活動の様子の写真掲載、保護者へのお願い等も記載） ・お便りの他にイベントや外出時には別紙お便りを作成し配布している	
	㉞	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	㉟	障がいのある子供や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	・イラスト提示やホワイトボードの活用、ジェスチャーでの伝達や選択肢の提案、保護者には箇条書きで見やすくLINEでのやり取り等の配慮をしている	
非常時等の対応	㊱	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員に周知している	100%	0%	0%	・いつでも見られるように事業所内にかけている	
	㊲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	・月1回事業所で実施（地震、火災を交互に実施し記録） ・年2回建物全体の避難訓練実施	
	㊳	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子供の状況を確認している	100%	0%	0%	・服薬やてんかん発作の有無は確認しているが、予防接種までは確認できていない	
	㊴	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	・年1回事業内研修で実施	
	㊵	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	0%	・おやつケースに貼ってスタッフ内で情報共有	・保護者からの情報のみなので、必要に応じて医師からの指示書もいただきたいと思う
	㊶	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%		・必要に応じて作成していきたい

〇この『事業所における自己評価結果』は事業所全体で行った評価です。